

# 授業改善

## 「新大分スタンダード」に基づく授業改善

[取組事例]豊後高田市立真玉小学校、児童数88名、中津教育事務所管内

### ポイント

重点目標達成のため、達成指標に照らして月毎に検証・改善を繰り返し、全職員が「新大分スタンダード」に基づいて同一歩調で取り組めるように細やかな授業改善を実施

### 1. 取組の内容

#### 平成28年度 授業改善への道の「見える化」(1学期)

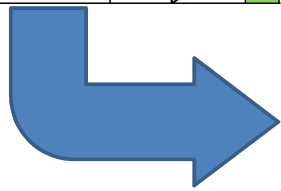
教務・研究担当

重点目標	魅力ある授業づくり									授業改善5点セット			
	重点的取組②			重点的取組①			重点的取組③			校内研究	学校スタンダード		
達成指標	100%の児童がまとめで自力で書けるようにすると共に、その学年でつけなければならない力の目標値を90%以上が達成できるようにする。 ⇒(5/24〜上記に加筆※1 8/4数値変更)毎月、単元テスト・大判テストで80点以上を80%以上にする。									テーマ「児童生徒が主体的に思考判断表現する授業をいかにつくるか」 重点【考えや意見を交流し合い、自力でまとめることのできる授業の推進】 →取組内容①自分の考えを持たせ、意見を交流させる→重取②→2 取組内容②課題に対するまとめを自分の言葉で書かせる→重取②→3			
運営委員会における検証・改善	まともから課題			自力でまとめる			考えを持ち交流			学習7か条			
4月	60% (低40%高60%) ・意識化できていない ・国と算に集中	42% (低6%高94%) ・低学年が低い →どの程度できたか「よし」とするかの検定が必要※2	39% (低27%高73%) ・発達段階に応じたまとめの規程を用いて、6月から検証していく	○1〜3項は全体的に定着 △4(姿勢)は低学年に課題 △6,7項については児童と担任との評価に差	○話し合い活動に必要な4〜6が改善 △姿勢や鉛筆の持ち方に課題 →学期中に集中的に取り組みを必要※3	○担任と児童の評価が一致してきた △姿勢や鉛筆の持ち方について改善されないうまである	○話し合いのしかたに あいまいなが残っている。明確にすべき ◇運動会等の学校行事における全体指導を上げたい	個別指導の実施時間と対象児童	1年 2年 3年 4年 5年 6年	朝 中 朝 朝 朝 朝 全 全 全 全 全 全	朝 中 朝 朝 朝 朝 全 全 全 全 全 全	研究主題「仮説・内容・組織・計画づくり」 ・まとめの概念の確認 …「課題に対する答え」もしくは「学習活動」による結果・結論 ・ペア・グループ学習は「いつ」「何のために」「どのように」を明確に	4/27 学校スタンダード改善点の確認
5月	64% (低30%高70%) ・依然として低と高の差が大きい 「総合的」な理科・社会での取組が見られるようになった	39% (低27%高73%) ・発達段階に応じたまとめの規程を用いて、6月から検証していく	76% (低35%高65%) ・低学年に改善が見られた	○話し合い活動に必要な4〜6が改善 △姿勢や鉛筆の持ち方に課題 →学期中に集中的に取り組みを必要※3	○話し合いのしかたに あいまいなが残っている。明確にすべき ◇運動会等の学校行事における全体指導を上げたい	○話し合いのしかたに あいまいなが残っている。明確にすべき ◇運動会等の学校行事における全体指導を上げたい	個別指導の実施時間と対象児童	1年 2年 3年 4年 5年 6年	朝 中 朝 朝 朝 朝 全 全 全 全 全 全	朝 中 朝 朝 朝 朝 全 全 全 全 全 全	校内研究「進んで読み伝え合い共に高め合う子ども」 内容①単元を貫く言語活動設定②学習方法の工夫 ③学習形態の工夫④自力でまとめる⑤言語活動日常化	5/6〜13 全学年本時事前検討	
6月	64% (低24%高76%) ・変化が見られない 一校内研修において実態の報告や実践交流を行うべき	76% (低35%高65%) ・低学年に改善が見られた	85% (低65%高95%) ・低学年に改善が見られた	○話し合い活動に必要な4〜6が改善 △姿勢や鉛筆の持ち方に課題 →学期中に集中的に取り組みを必要※3	○話し合いのしかたに あいまいなが残っている。明確にすべき ◇運動会等の学校行事における全体指導を上げたい	○話し合いのしかたに あいまいなが残っている。明確にすべき ◇運動会等の学校行事における全体指導を上げたい	個別指導の実施時間と対象児童	1年 2年 3年 4年 5年 6年	朝 中 朝 朝 朝 朝 全 全 全 全 全 全	朝 中 朝 朝 朝 朝 全 全 全 全 全 全	校内研究「進んで読み伝え合い共に高め合う子ども」 内容①単元を貫く言語活動設定②学習方法の工夫 ③学習形態の工夫④自力でまとめる⑤言語活動日常化	6/7初任研 4年(算) 6/17校内研 3年(国) 6/24 6年(総)	
7月	71% (低43%高57%) ・まとめの時期でテストや練習問題に時間を割いた ・今後は国算の実践を増やす	83% (低58%高42%) ・低はどのくらい改善につながったか	35% (低20%高50%) ・低はどのくらい改善につながったか	○話し合い活動に必要な4〜6が改善 △姿勢や鉛筆の持ち方に課題 →学期中に集中的に取り組みを必要※3	○話し合いのしかたに あいまいなが残っている。明確にすべき ◇運動会等の学校行事における全体指導を上げたい	○話し合いのしかたに あいまいなが残っている。明確にすべき ◇運動会等の学校行事における全体指導を上げたい	個別指導の実施時間と対象児童	1年 2年 3年 4年 5年 6年	朝 中 朝 朝 朝 朝 全 全 全 全 全 全	朝 中 朝 朝 朝 朝 全 全 全 全 全 全	校内研究「進んで読み伝え合い共に高め合う子ども」 内容①単元を貫く言語活動設定②学習方法の工夫 ③学習形態の工夫④自力でまとめる⑤言語活動日常化	6/20〜24 全学年本時事前検討	
8月	国語科の教材研究(特に、教材解釈)を十分に行い、探究的課題の設定を研究する(学級担任)	学び合い①の低中高の標準作成・提案(研究推進部)	評価のしかた(特に、見える化)について検討・提案(研究推進部)	個別指導の方法等について、意見交流して検証・改善(全体) →取組指標を変更(週3回実施へ)	県・全国学力調査の問題傾向から見える課題を、全職員が解いて検証し、実効性ある対策へつなげる	参観チェックシートを作り替え	6/7初任研 4年(算) 6/17校内研 3年(国) 6/24 6年(総)	7/5初任研 4年(国)	7/11〜15 全学年アクティブラーニング意識化チェック	8/4数値変更	8/10月見授業計画づくり	8/10月見授業計画づくり	

#### 平成28年度 授業改善への道の「見える化」(2学期)

教務・研究担当

重点目標	魅力ある授業づくり									授業改善5点セット		
	重点的取組②			重点的取組①			重点的取組③			校内研究	学校スタンダード	
達成指標	100%の児童がまとめで自力で書けるようにすると共に、その学年でつけなければならない力の目標値を90%以上が達成できるようにする。 ⇒(5/24〜上記に加筆※1 8/4数値変更)毎月、単元テスト・大判テストで80点以上を80%以上にする。									テーマ「児童生徒が主体的に思考判断表現する授業をいかにつくるか」 重点【考えや意見を交流し合い、自力でまとめることのできる授業の推進】 →取組内容①自分の考えを持たせ、意見を交流させる→重取②→2 取組内容②課題に対するまとめを自分の言葉で書かせる→重取②→3		
運営委員会における検証・改善	まともから課題			自力でまとめる			考えを持ち交流			学習7か条		
8月	国語科の教材研究(特に、教材解釈)を十分に行い、探究的課題の設定を研究する(学級担任)	学び合い①の低中高の標準作成・提案(研究推進部)	評価のしかた(特に、見える化)について検討・提案(研究推進部)	個別指導の方法等について、意見交流して検証・改善(全体) →取組指標を変更(週3回実施へ) 個別指導の見取りはどのくらいか[第2回事務所訪問にて]→10月実施テスト等の結果で効果検証、複数体朝も検討	県・全国学力調査の問題傾向から見える課題を、全職員が解いて検証し、実効性ある対策へつなげる →何学年時に、何をやっておくべきか→質作成・共通理解	参観チェックシートを作り替え	6/7初任研 4年(算) 6/17校内研 3年(国) 6/24 6年(総)	6/20〜24 全学年本時事前検討	8/4数値変更	8/10月見授業計画づくり	8/10月見授業計画づくり	
9月	49% (低39%高61%) ・運動会期間で体育以外の教科の実施が少なくなる ・国での取り組み増	79% (低42%高58%) ・算数中心から、国語への広がり見られる	42% (低52%高48%) ・今月は強化週間を入れていなかったが、授業者の自主的な取組あり	○話し合い活動に必要な4〜6が改善 △姿勢や鉛筆の持ち方に課題 →学期中に集中的に取り組みを必要※3	○話し合いのしかたに あいまいなが残っている。明確にすべき ◇運動会等の学校行事における全体指導を上げたい	○話し合いのしかたに あいまいなが残っている。明確にすべき ◇運動会等の学校行事における全体指導を上げたい	個別指導の実施時間と対象児童	1年 2年 3年 4年 5年 6年	朝 中 朝 朝 朝 朝 全 全 全 全 全 全	朝 中 朝 朝 朝 朝 全 全 全 全 全 全	校内研究「進んで読み伝え合い共に高め合う子ども」 内容①単元を貫く言語活動設定②学習方法の工夫 ③学習形態の工夫④自力でまとめる⑤言語活動日常化	7/5初任研 4年(国)
10月	80% (低80%高80%) ・チェクシートの記入に、学級担任の意識の高さが見られる ・高学年は国算以外の取り組みも	77% (低80%高80%) ・できていない約20%の子どもの指導の工夫が必要	60% (低63%高32%) ・授業者が高い強化週間に関わらず毎日の取り組みが見られる ・質の高まりを求めていく	○話し合い活動に必要な4〜6が改善 △姿勢や鉛筆の持ち方に課題 →学期中に集中的に取り組みを必要※3	○話し合いのしかたに あいまいなが残っている。明確にすべき ◇運動会等の学校行事における全体指導を上げたい	○話し合いのしかたに あいまいなが残っている。明確にすべき ◇運動会等の学校行事における全体指導を上げたい	個別指導の実施時間と対象児童	1年 2年 3年 4年 5年 6年	朝 中 朝 朝 朝 朝 全 全 全 全 全 全	朝 中 朝 朝 朝 朝 全 全 全 全 全 全	校内研究「進んで読み伝え合い共に高め合う子ども」 内容①単元を貫く言語活動設定②学習方法の工夫 ③学習形態の工夫④自力でまとめる⑤言語活動日常化	7/5初任研 4年(国)
11月												
12月												



### 2. 取組についての評価等

- (1) 主体的、対話的で深い学びをつくるために、協調学習等の手法を取り入れ学校全体で取り組んでおり、「まとめから課題づくり」など、「魅力ある授業づくり」の重点目標に近付いている
- (2) 「授業改善への道の『見える化』」を全職員で共有している
- (3) 授業改善の5点セットと連動させながら、教務主任等のミドルリーダーが分掌の核となって細やかな進行管理ができています
- (4) 全教職員が積極的に検証・改善を行うとともに、その方向性が明快であり、好循環の短期PDCAサイクルが効果的に実現されている